

(基本情報)

会議名称	第2回 立川市第5次地域福祉計画策定検討委員会 第6次地域福祉市民活動計画策定委員会
開催日時	令和5年11月8日(水曜日)午後7時00分~9時00分
開催場所	立川市役所2階 208会議室、209会議室
次第	1. 委員長あいさつ 2. 第1回委員会後の質問への回答 3. 現計画「立川市第4次地域福祉計画・第5次地域福祉市民活動計画」の進捗状況確認 4. 各委員が把握している地域の強みと課題について意見交換 5. 市民参加型ワークショップおよび対象別ヒアリングについて 6. 地域福祉に関するアンケートおよび地域福祉ウォッチャー調査について 7. 作業部会について 8. その他
配布資料	1. 「立川市第4次地域福祉計画」中間評価 2. 「第5次地域福祉市民活動計画」中間評価 3. 地域福祉に関するアンケート 4. 地域福祉ウォッチャー調査
出席者	[委員] 熊田博喜(委員長)、中村喜美子(副委員長)、久下沼諒、齋竹一子、菅根浩子、井村良英、太田なつみ、景山千鶴子、大江尚之、中村ひとみ、小澤清富、宮本直樹 [事務局] <立川市> 小平真弓(地域福祉課長)、伊藤和香子(地域包括ケア推進係長)、石丸亮太(地域福祉推進係) <立川市社会福祉協議会> 枝村珠衣(地域活動推進課長)、小山泰明(地域づくり係長)、内金崎快、高橋美季、吉田理恵(地域づくり係)
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市 福祉保健部 地域福祉課 地域福祉推進係 電話 042-523-2111(代表)

主な意見

【1. 委員長あいさつ】

・いよいよ計画策定に向けた委員会が本格的に始動すること、今回の会議では委員の皆様が把握する地域の強みと課題について意見交換することの説明があった。

【2. 第1回委員会後の質問への回答】

- ・特に質問はない旨を事務局より報告した。
- ・今後も疑問点等がある場合は、随時委員長や事務局に確認していただきたい旨を委員長より補足していただいた。

【3. 現計画「立川市第4次地域福祉計画・第5次地域福祉市民活動計画」の進捗状況確認】

<事務局（市）>

・資料1に基づき地域福祉計画の進捗状況を説明し、次期計画に向けたポイントについて説明した。

<事務局（社協）>

・資料2に基づき地域福祉市民活動計画の進捗状況を説明した。

<委員>

・広域連携について、近隣と積極的につながってほしい。

<事務局（市）>

→広域連携については、なかなか進んでおらず今後の課題と捉えている。

<委員長>

→何を連携するのか、何を独自で取り組むのか検討が必要である。

<委員>

・アンテナショップになったメリットを生かしきれていない。

<事務局（市）>

→支援者に対する支援として、行政はどのようなサポートができるのか引き続き考えていきたい。

→全部型地域福祉アンテナショップ、協働型地域福祉アンテナショップで相互にヒト、モノ、情報が行き来する仕組みについて検討していく。

<委員>

→地域福祉アンテナショップの何がメリットか。という点について、一団体・一個人の取組に行政のお墨付きがつき公認されることになる。パンフレットを置くにしてもお墨付きの有無で結果が異なることが多々ある。

<事務局（社協）>

→令和5年12月16日に地域福祉アンテナショップの懇談会を開催する。アンテナショップ同士が知り合い、つながることで、地域や市民に案内し合えるようになるとよい。

<委員>

・小地域ケア会議で民生委員などの市民から、どんな潜在的なニーズを確認することができたのか。また、多世代の課題を共有する場はあるか。

<事務局（社協）>

→民生委員などの市民の方の参加により、実際にその地区で生活している方の貴重な意見を伺うことができた。例えば、このエリアの人は買い物が困難、このエリアの人はバス停まで遠いなど。小地域ケア会議が高齢者を取り巻く環境などをメインに、課題を検討したり、意見交換をしたりする場であるため、多世代の課題についての話は伺っていない。

<委員長>

→立川市においては、いろいろな仕組みを仕掛けているが、具体的な内容については次期計画の策定とともに考えていくこととなる。

<委員>

・地域福祉アンテナショップはまだ「場所」に過ぎない。「場所」であれば他にもすでに公共施設などがある。「場所」よりも「人」が不足している。

・市民団体が求めていることは、行政公認の取組として活動していること。

【4. 各委員が把握している地域の強みと課題について意見交換】

3つのグループに分かれて、意見交換を行った。

≪地域の強み≫

- ・立川駅近辺では何でもできる。文化芸術に長けている。
- ・自治会のつながりがしっかりとしている。
- ・人材が豊富。積極的に課題に取り組む人が多い。
- ・立川市民以外の方も立川を居場所としている。
- ・世代間交流が行われている。
- ・新しく地域に入ってくる人を地域がすんなり受け入れる。
- ・個人個人としてのつながりはある。一人ひとり優しい心を持っている。

≪地域の課題≫

- ・駅から少し離れると交通が不便。移動困難地域がある。
- ・人材不足（担い手不足）
- ・地域のつながりの希薄化。自治会加入率の低下。
- ・学区によって文化が異なる。（小学校から中学校に進級する際等に文化の違いが問題になりうる。）
- ・縦割りで全体をコーディネートする役割を担うところがない。
- ・周知不足。どこに相談したらよいのかわからないことが多い。

- ・参加者が固定メンバー化している。
- ・地域の人材配置に力を入れてほしい。
- ・パブリックスペースの再構築、有効利用。
- ・人と人のつながりに地域差がある。
- ・地域で支えるより、施設や病院に任せるという考え方が多い。

<委員長>

- ・(積極的、熱心、協力的) 地域人材はいるが、その人材をうまく活用できていないのが現状である。いかに人材を発掘していくかを考えていく必要がある。
- ・地域によって、移動困難の課題があるということは、個々の地域で考えると課題を抱える地域があるということで、市全体をまとめて考えるのではなく、それぞれの地域をフォーカスする必要がある。
- ・自治会加入率が低下しているので、すべてを自治会頼みにしないこともポイントになってくるだろう。
- ・旧来ある施設をうまく活用できていない。例えば、アメリカでは学校や図書館を自由に使用することができる。既存の仕組みを見直す必要があるかもしれない。
- ・あるのに活用されていない。知られていない。という現状で今あるものをいかにして市民に活用してもらうか考える必要がある。

【5. 市民参加型ワークショップ及び対象別ヒアリングについて】

<事務局(社協)>

現時点で全部型地域福祉アンテナショップが設置されていない第1地区の富士見町で地域別市民参加型ワークショップの開催を予定している旨を説明した。

- ・令和6年1月15日(月) 19:00～ @滝ノ上会館 集会室
- ・令和6年2月19日(月) 19:00～ @滝ノ上会館 集会室

地域福祉アンテナショップにおける市民参加型ワークショップとして、現在地域福祉アンテナショップに関わっている人同士の横のつながりや意見交換、今後の方向性を検討する場、これから地域福祉アンテナショップに関わってくれそうな人に知ってもらう機会を設ける旨を説明した。

- ・令和5年12月16日(土) 13:00～(2部制) @たましん RISURU ホール 第1会議室等

<事務局(社協)>

対象別ヒアリングについては、今後本委員会、作業部会等を経てヒアリング内容やヒアリング先について検討していく旨を説明した。

【6. 地域福祉に関するアンケートおよび地域福祉ウォッチャー調査について】

<事務局(市)>

資料3に基づき、地域福祉に関するアンケートの対象者、概要について、説明を行った。
資料4に基づき、地域福祉ウォッチャー調査の対象者、概要について、説明を行った。

【7. 作業部会について】

<事務局（社協）>

参加委員への謝辞、その他現在参加表明はしていないものの参加したい委員についても引き続き受け付けている旨を説明した。

詳細日程等については、決まり次第共有すること共有した。

【8. その他、次回日程等】

第2回委員会についての日程調整を行った。

<委員>

「世界こどもの日 in たちかわ」について紹介いただいた。

<委員>

看護師、薬剤師等の専門職と連携したいことがあれば、遠慮なく相談してほしい旨共有いただいた。